

高齢者の住まいの手入れに関する研究

花王生活科学研究所 ○桐井まゆみ 平井淳子 重弘文子

目的] 高齢になると身体的な機能の変化に伴い、生活をする上でもいろいろ不都合が生じてくると考えられる。高齢者が自立し豊かな生活をおくるには、生活用品（商品）や情報にどのような配慮が望まれるのかを検討した。今回は生活の一場面である掃除について調査を行い、掃除用具（床用ペーパーワイパー）の使用を通して潜在する意識も探った。

方法] 首都圏在住 65 才以上の自分で掃除している女性 20 名を対象に家庭を訪問し掃除に関する意識・行動について面接調査を行った。また床用ペーパーワイパーの使用調査も併せて行った。

結果] 1) 調査対象者は自立して生活している高齢者であり、30～40 代の頃と比べて、家族構成の変化などに伴って、精神的・時間的にゆとりが生まれ、活力ある暮らしをしていた。

2) 高齢になってからの掃除は、頻度が少なく、方法も簡単になっている。

3) 様々な時代の体験、道具や住宅設備・材質の変化、子供の別居に伴う食生活の変化、部屋や浴室の汚れの軽減などを背景として、昔に比べて掃除は楽になったと実感している人が多い。高齢者にとって「掃除は気楽に気づいた時にサッとやる」というように変化していた。

4) 一昨年上市された床用ペーパーワイパーを使用してもらったところ、「軽い」「手軽」「静か」といった良さが高く評価され、高齢者の生活リズムや状況に馴染むことがわかった。一方、従来の作業の辛さもクローズアップされる結果となった。高齢者にも使い易く、生活の自立をサポートしてゆける商品づくりには、このような潜在的にある不自由さにも目を向けていくことが必要であると考えた。

5) 情報はテレビCFなどでは伝わりにくく、信頼している人からの情報などを重視していた。